

法住寺古蹟はふちゆうじのこ

〔今の養源院やうげん智積院ちやくゐんの地ならん。初め太政大臣藤原為光ためみつの建立なり、丈六金色釈迦仏を安ず。其後後

白河院こゝに仙院を建て、法住寺御所といふ。名泉あり桐井といふ、今さだかならず〕

嘉応二年法住寺殿の殿上の歌合に閑路落葉といふ心を

長秋詠藻　いろくの木葉に道もうづもれて名をさへたどるしら河の関　俊　成

平家物語長門本　養和元年二月廿五日、法住寺殿はふちゆうじどのへ御幸なる。此御所は応保元年四月十三日御移徙有て後、山水木立

かたぐの御しつらひに至るまで、思召やうにせさせましくつゝ、新日吉新熊野其近辺に祝奉らせ給ふ。